



# 学校だより

6月号  
横浜市立桜台小学校  
2018年5月31日発行

## それぞれの輝き、それぞれの運動会

校長 西尾琢郎

今年も、運動会が終わりました。保護者の皆さまや地域の皆さまなど、たくさんのお客さまからあたたかい声援をいただきながら、子どもたちもそれぞれ、自分の力を存分に発揮してくれたのではないかと思います。

本校の運動会は、例年、5月末に開催されておりますが、以前は秋の開催でした。今年の開会式の優勝杯返還をもってその役割を終えた、旧優勝杯にも「秋季大運動会 優勝」の文字が刻まれていたことから、それが分かります。スポーツの秋といわれる季節にも、厳しい残暑がみられることが珍しくなくなった昨今、それを避け、また秋の諸行事とのバッティングを防ぐといった理由から、春の運動会は本市でも多数派となりました。本年度優勝の白組に授与された新しい優勝杯は、本校の学校（施設）開放をご利用いただいている団体の皆さんからご寄贈いただいたもので、これからの桜台小学校と共に、新たな年輪を刻んでいくこととなります。同じように運動会も、世につれ変わっていくものなのでしょう。

さて、運動会といえば、それを活躍の場として楽しみにする児童が大勢いる一方で、つい苦手意識が顔を覗かせてしまう児童もまた少なくないものです。私自身は、後者に属する子どもでしたので、その気持ちはよく分かります。

そこで本校では、運動会、あるいは特定の教科に限らず、すべての学習活動には多面性があるという意識をもって指導にあたっております。体育にも、運動能力だけでなく、例えば算数や理科に通じるような論理性や物理法則への理解、あるいは道徳につながる共同性といったものが大切になる場面があるわけです。ですから、教職員や子どもたちには、運動会にも授業にも、それぞれ自分らしさを生かして参加することを考えてもらいたい、と常々伝えてきました。

徒競走で何着、だけでなく、チームのために作戦を練ったり、友だちにアドバイスをしたり、応援団として大きな声を出したりなど、今回見られた様々な子どもたちの活躍の姿がその現れなのであれば、この上なく嬉しいことです。改めまして、あたたかなご支援、本当にありがとうございました！